

## 令和3年度・「学校関係者評価」書面審査議事録

幼保連携型認定こども園

ひまわり幼稚園園長 頭島 光

## 【評価委員】

◇桜川町内会会長

◇西清見町内会会長

◇保護者会会長

◇同副会長

◇幼稚園園長

◇保育主幹

以上6名

## 【はじめに】

令和3年度は、2021年6月15日、午後3時より、本園園長室にて、上記「評価委員」の内、5名の出席をえて、一回目目の対面式での開催ができたものの、その後の厳しいコロナ禍での感染対策にあたり、当園の主な行事等の開催が中止もしくは規模縮小となり、評価委員の行事参加もできない状態となり、二回目、そして最後の委員会も見送ることとなりました。そこで、書面審議での議事録をここにまとめることといたします。但し、園内での先生方の自己評価はできました。園全体としてまとめた学校評価表はホームページで提示していく予定です。また保護者アンケートも毎回実施してきましたが、今回はコロナ禍のなかで行事等の評価は困難な状況であることを鑑みて、アンケート調査は実施しておりません。

以上、今年度の学校評価は、不本意な形ではありますが、書面審議の報告となります。

## 1. 【今年度の事業報告】(園長より)

◆今年度の目標は、コロナ禍の中ではあるが、精力的に取り組んできたこととしては「園児主体の保育」であった。いわゆる「考える保育」を中心に保育実践が行われ、保育者自身、常に園児の様子を観察、よりよい結果を見出すべく努力を重ねてきました。特に、基本的な生活レベルでの運動から始まり、リトミック等を駆使してのリズム体操と更に、横割り活動等の園内

活動を通して充実した環境設定の中、様々な保育実践を試みることができた。特に、運動会ではパラウェーブを初めて導入し、年長さんは見事に遣り遂げました。制限された時間の中、B、Cさんもそれぞれバルーン体操とダンス活動に真剣に取り組む姿を見せました。またクリスマス発表会では、園児自身が主体となって、生き生きした演技を見せました。このように、今年の園児たちは自らが主体となって取り組む姿を証明してみせました。

また、特筆すべき事柄として、今年度から積極的に導入した活動、「SDGsへの取り組み」があげられます。自然を含む環境問題への意識を高め、身近な所から始められる活動を展開しました。具体的な活動として「水を大切に」等のポスター作りが、Aさんたちを中心に展開できた。手洗い場にこのポスターを貼り付け、B、Cさんにも環境への意識付けができた。こうしたSDGs活動を通して、子どもたちが給食を残さないで完食するようになった。実際、この活動の結果として、残飯が減少した。

## 2. 【今後に向けての展開と具体的な目標】

事業報告で書いたように、今年度初めから取り組んできたSDGs活動は、次年度もその一環として引き継いで行きます。そこでも主体はあくまでも園児であり、Aさんたちを中心に、教育、保育活動を展開していくことを最大の目標とします。特にAさんを中心にして活動とし

て「水、給食、ゴミ」等の問題をさらに深め、いわゆる、地域社会でも行われている<リデュース→リユース→リサイクル>の取り組みを園内でも進めて行きたい。B、CさんもこのAさんたちの活動に影響を受け、環境問題への意識付けの効果も上がっている。

次に、「体を動かす」という事柄に関して、コスモ・スポーツさんとの協力、連帯により、さらに深化させ、単に運動することだけでなく、リズム体操であったり、体を動かすことへの興味であったり、運動に関心を持てるように工夫していきたい。リトミック活動やさくらんぼ体操といった手足を動かす運動、たとえば手遊びやリズム遊び等、取り入れる分野をさらに増やす工夫もできてきている。また園児たちの表現力や言葉使いにも、教育上まだまだ取り組み不十分な点も多々あったかと思う。そこで、様々な心地良い音色を聞いたり、楽器に触れたり、自らも演奏する等して、従来から足りない活動も展開していく。また一定のグループや仲間同士で合唱する等の活動をはじめ、様々な画材や道具等を使って、絵を描いたり、物を作ったりすること等、ほとんどできていない。子どもたちは演奏や演技、踊ったり、歌ったりと、まだまだたくさんの可能性をも秘めているはず。どこを、いつ、誰が、どのように企画し、試みるかは、まさに今後の本園の重要課題である。

モンテッソーリ教育指導法から来る基本的な活動を、園児たちが自律的に自分たちで考え、選び取って、様々な可能性を引き出すためには、環境設定は今後ますます重要な課題となるでしょう。

### 3. 【具体的な活動計画】

令和4年度は、本園が「幼保連携型認定こども園」となって5年目である。そこでモンテッソーリ教育指導法を土台にして、更なる保育・

教育の質の向上を目指します。そこで、「子どもたちの生活の場を美しく整える」を目標としたいと思います。そのために、本園の教育・保育の方針に、以下のようなテーマを掲げます。即ち「環境・運動・表現」です。

これらの課題を実現するため、まずは園組織の再編成を行います。職務分担表を作り、体制の根幹として幼稚園部と保育部に主幹と副主幹をそれぞれに二人ずつ配置します。事務長は、マネジメント・リーダーとなり、園長を頂点に6人が園全体の<マネジメント委員会>のメンバーとなります。これが、統合的に園全体の管理運営に関わっていくこととなります。

本園は保育部3クラス、幼稚園部5クラスで編成されます。園児は総勢144人のスタートです。幼保各部署は、月一回の職員会を開催し、園長及び主幹は研修講話を準備します。先生方も分かち合いを通して教育・保育の質の向上につなげます。その際に使用したレジュメ等資料は全教諭に配布し共有していきます。本園の三大大行事（運動会、クリスマス会、作品展）の準備や打合わせは「行事委員会」を開催して、企画案を提示し話し合い、協同して実践します。

その他<ケース会議>や<検討会議>を幼保各部署で、それぞれ少なくとも年二回は開催していきます。担当職員は、前もって日程等を決め準備します。食育アレルギー対応職員を配置し、「給食会議」をその都度開き、給食リーダーとも密に話し合っていきます。会議には主幹か副主幹のいずれかの本務職員が必ず入ります。更に園内の安全担当職員は<安全管理委員会>を開催し、会議を学期末毎に開きます。そこで、ヒヤリハット等で上げられた事例をフィードバックし、今後の事故対策や保護者対応に入念な話し合いをします。以上、新体制下で、各教諭よく連携・協力して明確な自覚をもって教育・保育にあたっていきます。